第十四回「言の葉大賞®」総評

一般社団法人言の葉協会 代表理事　佐藤 典司

今年も、応募総数二〇、九四三点というたくさんの方々からのご応募をいただきました。誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

今年の募集テーマは「ねがい」でした。人にはそれぞれの願いがあります。たとえば、自分や家族の病気が早く治るようにという願い、学業やスポーツの成績向上についての願い、中には、自分自身の願いではなく、他の人の願いがかなうように、という願いもありました。

また、そうした個人的な願いだけでなく、何としても世界から戦争を無くしたい、コロナのような恐ろしい病気が流行らないようにしたい、地球の温暖化をストップしたいなど、個人の枠を大きく超えた願いもありました。ただ、そのような願いの種類や大小によらず、受賞作には共通した良い点があったように思います。

今回の審査にあたっては、審査の基準を、「自分の言いたいことを自分の言葉で書けているかどうか」に置きました。では、「自分の言葉で」とは、どういうことでしょうか。第一に、自分らしい視点からものごとが見られているかどうか。次に、自分の感覚でそれがとらえられ、また上手に整理されているかどうか。そして、その驚きや気づきについて思わず読み手がその世界に引き込まれるような、ありきたりでない表現ができているかどうか、そういったことだろうと思います。

とくに今回の場合、願いの主人公が自分自身であることが多かったため、読み手の深い共感をもたらすような作品が、高く評価されたような気がしました。

「言の葉大賞」も、十四回目という長いご支援、ご支持を迎える中、今回もたくさんの秀作に巡り合うことができました。小学生から大学生、一般の方々までという全世代にわたる人たちの、さまざまな思いや経験、日々のくらし、人生に触れる喜びは、主催者側にとって言葉に尽くせない喜びでもあります。ぜひ、みなさまとも、本受賞作品集を通して、その喜びをわかちあえれば幸いです。